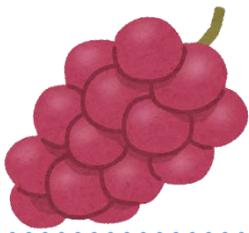


E.T.C. 「教育をタイムリーにチェンジする」

長野県総合教育センター通信



しののめ

2018/09/14
(平成30年09月号)
第113号

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4 (企画調査部)

TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail: kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

チャレンジしののめ塾 ご来場ありがとうございました・・・	1
追加募集のお申し込みについて・・・	2
パネル展示のご紹介 (青年海外協力隊・国際シニアボランティア)・・・	2
单元をつくろう④ (図工・美術編)・・・	3
研修講座から・・・	4

長野県総合教育センター
長野県生涯学習推進センター 施設開放



開場前から多くの方がお見え戴きました。



15のコーナーや教室でお楽しみいただきました。



天体望遠鏡も開放しました。



信州なび助も来場して、子どもたちとふれあいました。

今年は333名の方にご来場いただきました。本当にありがとうございました。



追加募集のお申し込みについて

希望研修の追加募集の一覧が9月6日（木曜日）付けで更新され、センターHPへアップロードされています。

センターHPへアクセスいただき、希望研修のバナーからご確認いただけます（右図）。

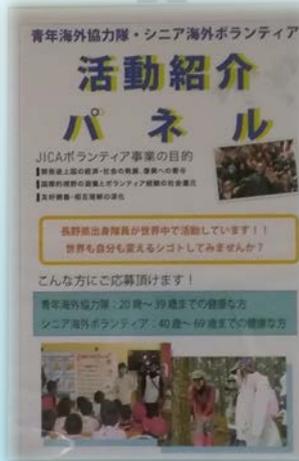
これからお申込みいただける講座も40以上あります。講座の詳細は、各校へ配布させていただきました講座案内（HPでも閲覧いただけます）をご覧ください。

なお、9月28日以降は電子申請でのお申し込みができません。

10月1日以降に追加申し込みをご希望の場合は、企画調査部（Tel.0263-53-8802）へお問い合わせください。



パネル展示のご紹介（青年海外協力隊・国際シニアボランティア）



教育関係等で海外に派遣されている長野県ゆかりの方が青年海外協力隊やシニア海外ボランティアでどのような活動をなさっていたか紹介されています。



学校で国際理解教育を考えた際に参考となる資料もご提供いただいています。

当センターでは10月22日に「**JICA 駒ヶ根で学ぶ国際理解教育**」※1という講座を開講しています。また、11月にはJICA駒ヶ根主催で、センターを会場に「**国際理解教育指導者セミナー**」※2が開催されます。そのようなご縁から、10月第1週までセンター2階通路でパネル展示をしています。センターにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

- ※1 追加募集の手続きでお申込みいただけます。
- ※2 JICA駒ヶ根へお問い合わせください。



題材をつくろう⑤

図工・美術編



図工・美術の授業では、自分の表したいことを基に表現できることが大事だけれど、どのように題材を構想したらいいのかな？

グループや全体などでの鑑賞の時間を位置づけ、発想が広がったり深まったりする機会を大切にしましょう。



つなぐ先生

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校第6学年

【題材名】 「感じて 考えて」（絵に表す）（6時間扱い）

【育成する資質・能力】

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
2 (2) イ 絵や立体，工作に表す活動を通して，表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに，前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり，表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして，表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。	2 (1) イ 絵や立体，工作に表す活動を通して，感じたこと，想像したこと，見たこと，伝えたいことから，表したいことを見付けることや，形や色，材料の特徴，構成の美しさなどの感じ，用途などを考えながら，どのように主題を表すかについて考えること。

【主な学習活動と留意点】

前題材からのつながり：「筆あとと研究所」作品から見付けた筆あとを参考に表したいことを見付け，絵に表した。
・ 試しながら表したいことを見付け，形や色の構成を考える。 ・ 材料などの使い方を工夫する。

働かせる見方・考え方：材料や方法の工夫で生まれる形や色などの特徴から，自分なりの価値をつくりだすこと。

階	学習活動（時間）	留意点
出 合 い	1 オリエンテーション（1） ・ 題材の内容を知る。 ・ 表現への意欲をもつ。	題材の見通しをもち、表現に興味をもつ場面 ☞ 作品を鑑賞したり材料体験をしたりすることを通して，題材の見通しや興味をもてるようにしましょう。
	題材の願い：材料や、形や色の構成を工夫し、表したいことを表現しよう。	
広 が り ・ 深 ま り	2 ビーズや小石，液体粘土など多様な材料を試す（1） ・ 表れる表現から受けるイメージを基に，表したいことを見付けたり材料や表現方法を考えたりする。	個人追求の場面 ・ 自然に行われる相互鑑賞の場面 ☞ 材料の感じから形や色などのよさや面白さを捉え，表したいことや表現方法が見つかるよう，材料に触れる時間を十分確保しましょう。 ☞ 活動をしなが，自然にお互いの活動を見合ったり，思いや考えを聞き合ったりできる場の工夫をしましょう。
	3 互いの表現を鑑賞する（1） ・ 使う材料や表し方の違いによるイメージの違いや，表し方のよさを学び合う	グループ、全体での中間鑑賞の場面 ☞ 材料や用具の使い方や表し方のよさに気付き，表したいことを深めたり表現方法に工夫をしたりできるようにしましょう。
	4 表したいことに合わせて，材料や表し方を工夫して表す（2）	個人追求の場面・自然に行われる相互鑑賞の場面 ☞ 試行錯誤を繰り返しながら，表したいことに合わせて材料や用具の使い方や構成を工夫できるようにしましょう。
振 り 返 り	5 作品を鑑賞し合う（1） ・ 表現のよさや美しさ，面白さを味わう	個人、グループ、全体での鑑賞場面 ☞ 思いを表す題名を付けたり，表したかったことと表現の工夫を結び付けたりしながら，思いや感想を伝え合えるようにしましょう。

次題材へのつながり：「表現にこめた思い」表現の工夫から作者が表したかったことについて考え，語り合う。
・ 形や色などの特徴を基に，作者の思いを想像する。

※事例の具体的な流れ

製作から鑑賞，鑑賞から製作！

使用する材料（例）

段ボール，ビーズ，木片，小石，ストロー，紐，液体粘土，緩衝材，土，布

使用する用具（例）

絵の具，はさみ，カッター，のり，木工用接着剤

教科書の作例や，示範作品を鑑賞したり，友だちの考えを聞いたりして，製作の見通しがもてるようにしましょう。（鑑賞①）

「いろいろな材料があって，楽しくなりそうだな。何を組合せようかな？」

「板の上に，段ボールや布を貼り付けてみよう！なんだか楽譜みたいに見えるきたな。」

面白い表現を見付けたり，表現方法についてアドバイスをもらったりするなど，鑑賞を製作に生かしましょう。（鑑賞②）

「〇〇さんのように，土を混ぜた液体粘土を塗ると，落ち着いた色で素敵だな。やってみようかな！」

「色も工夫したら，砂のような色合いになったから，題名は〈砂色の楽譜〉にしよう！」

発想を広げるために，鑑賞の時間を有効に活用しましょう。また，相互鑑賞や中間鑑賞が題材展開中どこで起こるか考えて，構想しましょう。



友だちの表現のよさや美しさ，面白さを味わい，次題材への表現に生かせるような鑑賞にしましょう。（鑑賞③）



研修講座から

授業のユニバーサルデザイン化（6月12日）

この講座は、次のようなねらいによって開講し、62名の方が受講しました。

<講座のねらい>

- 授業のユニバーサルデザイン化についての基本的な考え方を学級づくりや授業づくりの中での具体的な生かし方を学ぶことを通して、考え方と実践力を身につけましょう。
- 演習を通して、具体的な授業場面を想起しながら、授業のユニバーサルデザイン化に向けた実践について学び、今後自らが取り組むべき課題を明らかにしましょう。

<講座の主な内容>

（講義・演習）「授業のユニバーサルデザインの理論」 } 明星大学 心理学部 心理学科
 （講義・演習）「ユニバーサルデザインによる授業づくり」 } 小貫 悟 教授

◆◆◆感想の抜粋◆◆◆

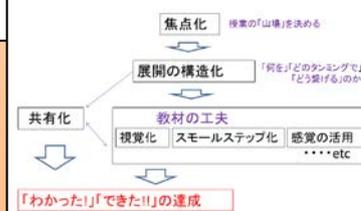
- 「心が動かない授業には何も残らない」「授業の山場（感嘆詞）からの授業づくり」など、今までの自分にはない考え方、授業の作り方を学ぶことができました。
- 授業の中で子どもたちがつまづきやすいところをあらかじめ考えておき、それをなくすことによって、どの子にとってもわかりやすい授業ができることがわかった。
- これまで目標設定を欲張りすぎて、あれもこれもとっていたことが子どもにとって苦しい事でもあることを改めて知った。

教育におけるユニバーサル・デザイン

発達障害のある子にとって、参加しやすい学校、わかりやすい授業は、他のすべての子にとっても、参加しやすい学校であり、わかりやすい授業である。

講義スライドから

UDの工夫の視点の関係図



心をつなぐドラムサークル ～リズムを育てるコミュニケーション～（6月16日）

この講座は、松本大学との連携講座として開講されました。大学生とともに小グループ活動や意見交換も行い、新しい音楽教育の形を体感してもらう機会となりました。

<講座のねらい（要約）>

- ドラムサークルの理論や実践方法を知り、授業や全校音楽、学級活動に取り入れることを考えることができる
- ドラムサークルを通して育まれるつながりを感じ、即興的につくる活動を体験する
- 特別支援教育・生徒指導に活かす手立てを学ぶ

<講座の主な内容>

（講義・演習）「これからの音楽科教員養成・育成に求められること」 松本大学教育学部 安藤 江里 専任講師
 （講義・演習）「体験！！リズムでつながるドラムサークル」 REMO社公認ドラムサークルファシリテーター 妹尾 美穂 さん

◆◆◆感想の抜粋◆◆◆

- 自分のリズムをまねてもらったり、ほめてもらうこと、認めてもらうことが大切だと分かった。
- “間違ってもよい”という意識、子どもたちに伝えていきたいと思います。
- 学生さんたちとも意見交換できてお互いに良い刺激になりました。
- 文化祭、講演会、芸術鑑賞といった機械でこのような場を生徒に提供できないか検討したいと思います。

当日の様子

